

3-4 レベル4の自動運転

前節で述べたレベル3の自動運転では、「自動走行システムがドライバーに運転の交代を要請した折に、もし所定の時間内にドライバーが制御を引き継ぐ意思を示さないときは、どうすればよいのだろうか」という課題が残されていました。

基本的には、レベル4の自動運転も「機械の判断による、機械から人への権限委譲」に関わる課題を抱えてはいますが、レベル4の自動運転には、レベル3にはない大きな特徴があります。それは、「自動走行システムがドライバーに運転の交代を要請した折、所定の時間が経過してもドライバーが制御を引き継ぐ意思を示さないときは、自動走行システムが車両制御を継続する」ということを明確にしている点です。その点において、レベル3の自動運転と一線を画するものになっています。ドライバーが制御を引き継ごうとしないとき、レベル3の自動運転では車両が無制御状態になる危険性があるのに対し、レベル4ではそのような事態に陥ることはないわけですから、レベル3の自動運転よりもレベル4の自動運転のほうが優れているとってよいでしょう。ただし、本来、ドライバーが運転を引き継ぐべき時に引き継ごうとしないため、システムが運転継続を行うとしても、当初の目的地までの自動走行が保証されるわけではありません。むしろ、システムは、適当なところを見つけて車両を安全に停止させるという方策を採るということになります。